

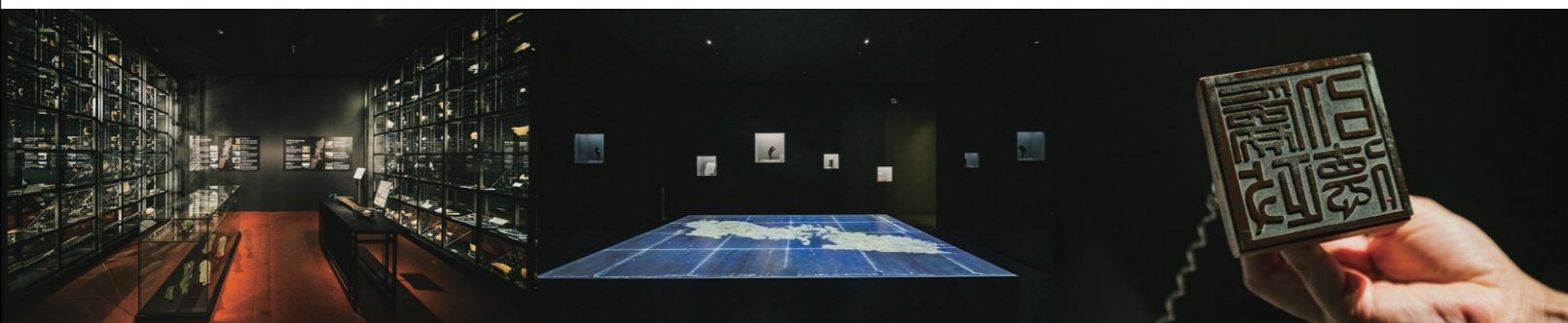


「朝鮮国信使絵巻」には
行列の様子が生々しく描かれている。



対馬博物館

Tsushima Museum



「古代」エリアには、
対馬で見つかったさまざまな出土品が
展示されている。

「総合」エリアでは、
対馬の営みや自然環境を連想させる
映像を大スクリーンで楽しめる。

「国書偽造」事件の際に宗家が造った
偽造印を再現した
スタンプを押すコーナーも。

対馬を丸ごと知る 新たなスポット

二 ○二二年四月三十日、対馬博物館がオープンした。島の風景と調和する重厚感あふれる黒の大屋根が印象的な建物は、中に入れば解放感あふれるロビーが広がっている。内部の構造は対馬宗家の資料倉庫「御文庫」をモチーフとしていて、対馬の大切な宝を守り伝える博物館にふさわしい。

近世・近現代の五つのエリアに分かれ、島の歴史が時代を追って紹介されている。対馬はその地理的条件から、幾度となく国防の最前線としての役割を担ってきた。また大陸との交流を背景に生まれた歴史や文化、自然など、独特で多様な特色を持っている。こうした島の全体像を短い時間で理解するのは、少々難しい。しかし館内では随所でアニメーションや動画を

使い、小さな子どもや海外の人にも対馬がどんな島なのか分かるような工夫がなされている。例えば、博物館の見どころの一つ「朝鮮国信使絵巻」。実物のそばに設置されたモニターの画面の中で絵巻に描かれた人々が歩き出す。その動きはともリアルで、一気に朝鮮通信使に親しみを感じてしまった。描かれている人の役割や物の意味などが動画の中で簡潔に紹介され、絵巻の世界にどんな引き込まれてゆく。

学芸員の小栗栖まり子さんは「対馬を治めてきた宗家には『島は島なりに治めよ』という言葉が伝わっています。その言葉通り、対馬は日本本土と朝鮮半島をつなぐパイプ役を時代に合わせて柔軟に担ってきました。そうした特殊な歴史の中で残された資料を見ることがするのが博物館の魅力です」と話す。

館内をめぐっていると、この島が受け継いできたアイデンティティーのようなものが伝わってくる。小栗栖さんは「これからの時代を生きていく私たちにとって、対馬の歴史から学ぶことは多いと考えています。この博物館を未来志向の学びがあるものにしていきたいですね」と目を輝かせた。

対馬博物館では平常展示のほか、年に数回特別展示を開催。島の姿を多角的に楽しみたい。



長崎の
美味しい
島めぐり
— 対馬 —
Tsushima



学芸員の小栗栖さん